

# 神道と気学の関連性

## 1. 神道の神

### 八百万の神を生んだ日本人の発想

古来、自然と共存してきた日本人は、山川草木、生きるものにすべての靈魂が宿ると考えてきました。

人間や動植物、山や川のみならず、雨や雷といった自然現象にも靈魂の存在を認めたのです。

神道の神は古代人が自分の心の中にある人間や自然に大切に感じる気持ち、つまり良心を神と感じたものともいえます。

靈魂のうち自分が感謝や畏れを感じ、祀ったものが全て「神」になる。

日本の神が「八百万」といわれるほど、多種多彩なのはこのためです。

## 2. 神ながらの道

### 天地大自然の巡り、四季の運行に沿って生活すること

神道とは人間の歩む道を示しています。“ありのまま”であり、天地大自然の巡り、四季の運行に従って生活することは、人間として歩むべき道であり、ここに神道の根本原理があります。

気学は、大自然の哲理を学び、活用する学問です。方位・運勢・家相などにおいてもこの大自然の働きがいかに大きいかを知ることが必要です。

地球を含む大宇宙には、無量無限の大気、すなわち「魂命靈氣」(おおみたま)が満ち満ちています。この大靈は、大宇宙の万象を育むすべての靈をいいます。この「魂命靈氣」(おおみたま)を「氣」と捉えます。

私達の氣の働きが大宇宙の「魂命靈氣」(おおみたま)といかに結び、いかに生きていくかによって、開運が可能になり、靈性が高まって、念願が成就することができます。

## 3. 大宇宙の真理を伝える「数」の配列

### 「言靈」・「数靈」

神道には「言靈」・「数靈」といって、言葉や数には不思議なパワーが宿っているという信仰があります。

「ひふみ祝詞」は鎮魂の祝詞です。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ひふみよいむなやここのたり

この一から十までの数の意味を知ると、天地の理法を知ることになり、自分の運勢を見定め、運勢を切り開いていくこととなります。十は一に○をつけたもので、○は神界(靈界・仏界も含む)を意味します。

現界は一から九までになります。

### 「一から九までの数の意味」

数字によって、天地の律義な働き、動きを知ることができます。

気学では一白～九紫を表し、その意味を象意であらわします。そして、一から九までを盤に配置します。

この配置には意味があります。地球が太陽の周りを公転していること、惑星の巡りにも関係しています。

「古事記」では、地球が出来た時や人類が生まれた時の状態が記されています。

大宇宙の大靈の中心たる天之御中主大神(あまのみなかぬし)によって仕組まれ、大宇宙から神々(天照大神、月読命、素盞鳴命(すさのおのみこと)の三貴神)太陽系宇宙に天降られ、

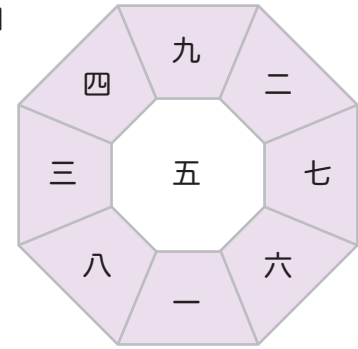
さらに小宇宙の中の地球に人類が生まれ住みついていく過程があらわされております。(図1を参照)

人間の体の内部と地球が一体であり、人間の体は小宇宙であり、天地の巡りも、この人間の体内の構造も原理は同じであると表しているのです。さらに、縦、横、斜めの数字を加えると全部で十五の数になります。

これが「古事記」に記されている神代七代十五神（資料1参照）の神計りであるとも考えられます。

すべての神々が元宇宙・小宇宙・地球という世界の仕組みであることに通じてきます。森羅万象万有一切は、神が産み成し給うた、人間もまた神の子として万象の一存在です。生まれると同時に神から魂を分け与えられた神の分身です。（\*一霊四魂を表す）

図1



#### \* 一霊四魂とは？

- 直霊（なおひ）・・・内在の神仏の中心的存在。その直接の霊投神が「直霊の大神」であり、直霊の大神と産土の大神が表裏関係になる。
- 荒魂（あらみたま）・・・この世に現象化をもたらす働きをする内在の神仏
- 和魂（にぎたま）・・・調和・統合する働きをする内在の神仏
- 幸魂（さきみたま）・・・智慧、洞察力を司る内在の神仏
- 奇魂（くしみたま）・・・奇しき力（奇跡・超常的パワー）を司る内在の神仏

### 資料1 神代七代（かみよななよ）十五神

#### 別天神（ことあまつかみ）5柱

- 1 天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）元宇宙から天降って小宇宙を修理固成
- 2 高御産巢日神（たかむすびのかみ）
- 3 神産巢日神（かみむすびのかみ）
- 4 宇摩志阿斯訶備比古遲神（うましあしかびひこじのかみ）
- 5 天之常立神（あめのとこたちのかみ）

#### 神代七代（かみよななよ）元宇宙・小宇宙へ

- 1 国之常立神（くにのとこたちのかみ）
- 2 豊雲野神（とよくものかみ）
- 3 宇比地邇神（うひじにのかみ）、次に妹の須比智邇神（すひじにのかみ）
- 4 角杵神（つのぐいのかみ）、11、妹の活杵神（いくぐいのかみ）
- 5 意富斗能地神（おほとのじのかみ）、妹の大斗乃弁神（いもおほとのべのかみ）
- 6 於母陀流神（おもだるのかみ）、15、妹阿夜訶志古泥神（あやかしこねのかみ）
- 7 伊邪那岐神（いざなぎのかみ）妹伊邪那美神（いもいざなみのかみ）国産み・神産み（国土修理固成）

宇豆の三神（三貴神）の誕生（天照大神 — 月読命 — 素盞鳴命）

## 4. 七五三

なぜ、七五三の祝いをするのか？なぜこの年に神とつながりを持ち、成長を祈願するのか？

数え年 本来、子供が生まれた時を1歳とします。それは、妊娠した時が生命の誕生と考えます。

「七五三の縄」と書いて七五三縄（しめなわ）と読みます。

人間は一人では生きられぬ、必ず相手がいて、相手と共存しながら生きるのが自然の原則であって、人のつながりがすなわちヨコのつながりです。これを七五三縄（しめなわ）というのです。

昔からしめ縄を張った中は神々が降臨する場所としされ、地鎮祭など神社以外の場でとりおこなわれる祭りなどは、榊とか椿の木を神の座（依り代 よりしろ）として四方にしめ縄を張ります。

お正月の「しめ飾り」も平和な心になって清まった場で神様をお迎えするということにつながります。

私達は隣近所すべて、神の心をもって互いに助け合う共存の姿が自然の姿である日本の伝統によるものです。

崇高な心で尊敬しあいながらおつきあいする意味からもお互い助け合って生活することを七五三の結びといいます。

女兒三歳にして人間として人間としての魂が整い（三つ子の魂百まで）、

男子五歳にして中心に立ち（五が真ん中）、七歳にして変化を知り、

大人への仲間入りをうるといいます。

成長と感謝を込めて祝う制度として、七五三のお祭りができたのです。

## 5. 一五九の神むすびと七五三のしめむすび

敬神崇祖のタテのむすび（一五九の神むすび）「先祖 — 親 — 子」

共存共栄のヨコのむすび（七五三のしめむすび）

神ながらとはタテとヨコの道であります。これを「一五九と七五三の結び」といいます。

天地大自然との調和、平和の心になって、ひとりひとりの心に宿っているのです。

「古事記」にみられる天地大自然の巡りを示した神世七代十五神の仕組みに通じます。

この仕組みが九星の盤となります。

天之御中主大神（あまのみなかぬし）から伊耶那岐命（いざなぎのみこと）と伊耶那美命（いざなみのみこと）

至る天津神の高天原における「天津宮事」（あまつみやごと）も示しています。

天津神の経緯（しくみ）が基本となり、天照大神、月読命、（つきよみのみこと）

建速須佐之男命（たけはやすさのおのみこと）のちに素盞鳴命（すさのおのみこと）

の三貴神の生誕となり、天之御中主大神（あまのみなかぬし）を中心とした大宇宙、太陽系宇宙の仕組みが

九星となります。日、月、星の三つの光によって、地上へと光を降ろされたことが「氣」のもとになっているのです。

この日・月・星の光にある霊は、神代七代十五神、つまり一番最初に現れ出た神界の仕組みを

この日・月・星の光に乗せて地上に降ろされたのです。

その光を受けることを“受霊”（うけひ）といい、三光を受けることによって人間のみならず、森羅万象万有がすべて生かされています。

太陽・月・星の三光の意味を知って、神から与えられた使命、または自分に与えられた「人生の目的」を知り、実行することが、正しく歩いていく基本であり、天津神々によって啓示されたものです。それが九星なのです。

## 6. 「日・月・星」の三元の法則

「フローディング研究所のロゴマークの意味」を参照ください。

## 7. 天照大神の神勅

天照大神の神勅「齋庭（ゆにわ）の稲穂の神勅」は共存共栄の思想

齋庭（ゆにわ）の稲穂の神勅 — 日本書紀から一天照大神が孫にあたるニニギノ命に命じて稲穂を下さえて、日本の国に初めてお降りになった時、

「吾が高天原にきこしめす齋庭の稲穂をもって、吾が児にまかせまつるべし」といわれました。

稲 — 命の根 — 日本人の命の根源 — 一粒まけば万倍になる — 「一粒万倍」

人類は大自然に身を委ね、それぞれの役割をあるがままに果たす時、おのずから共存共栄の道を知ります。

親から子へ、子から孫へ、正しく歩む道（神道）として伝えていきます

猿田彦大神 — ニニギノ命に田作りを教え地上に初めて、稲の種がまかれました。

地上における衣食住をすべて守り、導く神様

ニニギノ命とその一行が天から地上へ天降りされる時、彼らを出迎え、ご案内された神様

## 8. 自他一如の法則

日光や空気が生物の中に溶け込んで、その使命を果たすように、他のために尽くすことによって自分を生かせという意味

人間生活におきかえると他人を傷つけておいて自分は守られるということはありません。他人を守った程度に自分も守られ、他人に喜びを与えた量に比例して、自分も喜びを得られるものです。

そして、自分というものには代理がありません。神（自然）の偉大なる力を宇気比（受霊 - ツキ 運）をするなら、その法則にそった生き方を忘れてはならない。生かされている感謝、意志をもつ、その一方で笑い、素直な気持ち、バランス（調和のとれた生活）をとること。靈性を高めて、行動していくことです。

天と地を結ぶのも自分 始めと終わりを結ぶのも自分 自分以外には代理がありません。

自分を大切に生きていく。自分に与えられている時間（中今）を大事にする。自分の運を大切にする。

～運が開けていきます。（運が悪い人ほど自分を大切にしていません）

そして、「自他一如」の生活にも向うことができます

中今の精神・・・今日一日、今現在のこの時を大切にし、自分に与えられた神からの使命を、全精力をつくして達成すべく精進努力することです。それが生きていく者の宿命であり、この中今の精神を発揮する時念願が成就されるのです。

三位一体は「神仏」「気」「現実」を表す

「神仏」（日本）= 守護の神仏 日拝・自身拝・産土信仰（鎮守、守護）

「気」（東洋）= 宇宙、大自然の運行を含めた気のこと「運命学」

「現実」（西洋）= 現世（今生）お金・健康・実現化

太陽、月、星、十干、十二支、九星。この氣の巡りの組み合わせを知ること、（運命学）

天地自然の道理に生きて、（行動）

神、仏、先祖への祈りと感謝の心が（神仏先祖）

天命を全うして、豊かな人生を歩むことに繋がっていくと考えます。（現実化）

